

「脱原発をめざす首長会議」世話人

南相馬市 桜井勝延市長

湖西市 三上元市長

東海村 村上達也村長

拝啓

東日本大震災とそれにつづく福島原発事故で被災された皆様と日本の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。チェルノブイリ事故を経験した地域の一つとして、復興への歩みを進めつつ、住民の安全と生活の確保に邁進される皆様に応援しております。こうした皆様の努力は、人間の安全保障と持続可能な未来への真の意志を表すものです。

福島第一原発から放出された莫大な量の放射性物質は、大気、土壌、森林、海洋を汚染し、現在も地球上に拡散し続け、状況は収束していません。さらに、地震大国における原発の安全性という問題も依然として存在しています。そのため私たちは、国民の大きな反対と国際社会の懸念を押し切って、日本政府が福井県の大飯原子力発電所の原子炉二基を再稼働させる決定をしたことを非常に憂慮しています。大飯原発再稼働の決定は、福島原発の事故以前からの安全基準を強化あるいは改善するための措置を何らとらないまま他の原発をも再稼働していくことにつながりかねません。

私たちは皆さまの「脱原発をめざす首長会議」、また皆さまによる原発再稼働を阻止するための呼びかけを全面的に支持すると共に、原子力に頼らない市町村をつくるために活動する人々と連帯します。現在日本ではエネルギー基本計画の見直しが進んでいますが、2030年へ向けた原子力への国内依存度については、日本の政策主導者が賢明な判断を下し、原発の段階的廃止という政策をとり、2030年までに原発への依存をゼロにすることを祈っています。

ウィーン市は、憂慮するヨーロッパの市町村を東に、省エネ技術と再生可能エネルギーを促進しつつ原子力を段階的に廃止するための議論を進めています。原発事故による環境と経済的損失および失われた生活への法的責任は、計りしれません。私たちは過去の原子力事故全てから真摯に学び、住民の安全を確保します。同じ自治体の首長として、原子力のない未来、住民が安心して暮らせる世界を共につくっていきましょう。

敬具

2012年7月13日
ウィーン市環境評議員
ウリ・シーマ

Oli Sima